

▼お手玉や縄跳びを使った遊びは大人気



「いもぐに、めがでて、はがでて、ほい」。どこか懐かしく感じる歌と子供たちの楽しそうな声が、保育園から聞こえてきます。園児の中心にいるのはわらべうたの宅配便を届ける「トツキー先生」こと加藤ときえさんです。



わらべうたが

歌い継がれるように

へと進学。音楽教育について学んでいた加藤さんですが、胸の中には子供の頃からもやもやした思いを持ち続けていたといいます。「なぜ私は音楽を樂しめないのだろうか」。練習という義務に縛られ、一人でピアノを弾くことに孤独を感じ、本来は楽しいはずの音楽に苦しさを感じてきた加藤さん。そんなとき、わらべうたに出会い、加藤さんの人生は変わります。

「なんて楽しいんだろう」。遊びの中で歌と動きが組み合わされ、理屈ではない楽しさがそこにはありました。「音楽のもともとの楽しさはここにあるじゃない」。加藤さんはわらべうたの魅力に夢中になります。大学を卒業後、廿日市市でわらべうたの音楽教室を開いた加藤さん。口コミや

Vol.71

加藤 ときえさん  
(室の木町在住)

音楽大学在学中にわらべうたに魅せられ、わらべうたの研究を始める。子育て支援の一環として、保育園や育児サークルなどで、わらべうた遊びの楽しさを伝えている。

ホームページなどを通じ次第に評判が広まり、活動の場が広がっていきました。現在は、市内の保育園でわらべうたあそびの楽しさを伝えたり、学童保育の先生や保育士に研修を行ったりという活動も行っています。

「わらべうたは民族の音楽であり、言葉であり、文化であると思っています。子供の遊びの中から生まれ、世代を越えて歌い継がれてきたわらべうたこそ、子供たちが最初に触れ合う音楽であって欲しいと思います」と話してくれた加藤さん。最後に今後の目標を聞きました。

「わらべうた遊びの楽しさは実際に体験してみないと分かりません。大人も子供も含めて、わらべうたを樂しめる場がもっと広がったらいなと思っています。遊びの中から、音楽ってこんなに楽しいんだ、という思いが広がっていくとうれしいです」



▲趣味は歴史好きが高じて始めた居合道。腕前はなんと2段。



▲みんなで輪になってわらべうたあそび。園児には笑顔が絶えない。

